

「旅行に行きたい」から頑張れる

第5回

目標や目的が人を動かす

僕は高校生のときサッカー部に所属し、寝る間も惜しんで練習していたことがあります。朝は5時に家を出て朝練、夜はナイターの照明が消えるまで居残り練習。家に帰りつくのは毎晩11時を過ぎていました。とにかく上手くなりレギュラーの座を取りたいと努力していました。その努力が報われレギュラーを勝ち取りましたが、数ヶ月後練習中に足首を怪我してしまいました。全治3ヶ月の診断でしたが、絶対に完治させもう一度レギュラーとして試合に出るんだ、と明確な目標をもちリハビリに取り組んだことを覚えています。

高齢者施設でよく目にする光



景ですが、利用者が一生懸命リハビリに取り組んでいます。身体の機能維持、回復を目的に実施されていますが、僕は「これは目的にはならない」と考えています。これでは本来の回復は望めないと思うからです。数年前、高齢者施設でリハビリをしている女性が「この歳でもうあとは死ぬだけの私が、何でこんなにリハビリをしないといけないの」とつぶやいているのが聞こえました。ひとりの女性の言葉ですが、多くの方の素直な心の声と僕は捉えています。リハビリという医学的なトレーニングは素晴らしいとは思いますが、「何のために取り組むのか」という目標を自身がしっかり

持っていないのが現実です。

僕はよく要介護度3から5の方をご旅行にお連れします。旅行後、ご家族から「次は○○へ行きたいから、体力をつけるためにリハビリを今頑張っています」という声をいただきます。1年ぶりにお会いすると、「ベッドのリクライニングも20度ぐらいまでしか上げられなかったのが、45度ぐらい上げてそのポジションを保持できるようになり、調子の良いときはベッドサイドに20分も座れるようになっていました。

若者であろうと高齢者であろうと、人は目標や目的を持つことが重要です。高齢になると生きる目的を失いがちです。旅行はあくまできっかけに過ぎませんが、年に一度の旅行を目標に、リハビリに取り組み、活き活きと輝き過ぎてもらいたいと思います。

いくつになっても
Let's Travel



ハンディネットワーク
インターナショナル（HNI）
代表取締役 春山哲朗

進行性筋ジストロフィーにより首から下の運動機能を全廃してなおビジネスマンとして第一線で活躍した春山満を父に持つ。ハワイ留学後、ネバダ州立大学ラスベガス校ホテルマネジメント学科へ編入。2007年HNI入社。取締役を経て、2014年父の急逝にともない、代表取締役就任。翌年、新事業「グッドタイム トラベル」開始。要介護になってもあきらめずに家族旅行を続けていただきたい思いを実現。